

## 平成24年(経過)の火薬類取締法関係事故について

平成24年11月21日  
 商務流通保安グループ  
 鉱山・火薬類監理官付

### 1. 災害発生の推移

イ) 災害発生件数は、1956年(昭和31年)の671件をピークに減少し、近年は40件前後、過去3年は30件前後で推移していたが、本年は56件(経過)に増加している(図1参照)。

ロ) 一方で、人身被害については、災害発生件数の減少に伴い、死傷者数も年々着実に減少しており、1960年までは千名を超えていた死傷者数は、近年では概ね40名前後で推移している。また、このうち死亡者数も、1980年以降、ほとんどの年で1桁台、ここ3年は0名で推移している(図1参照)。

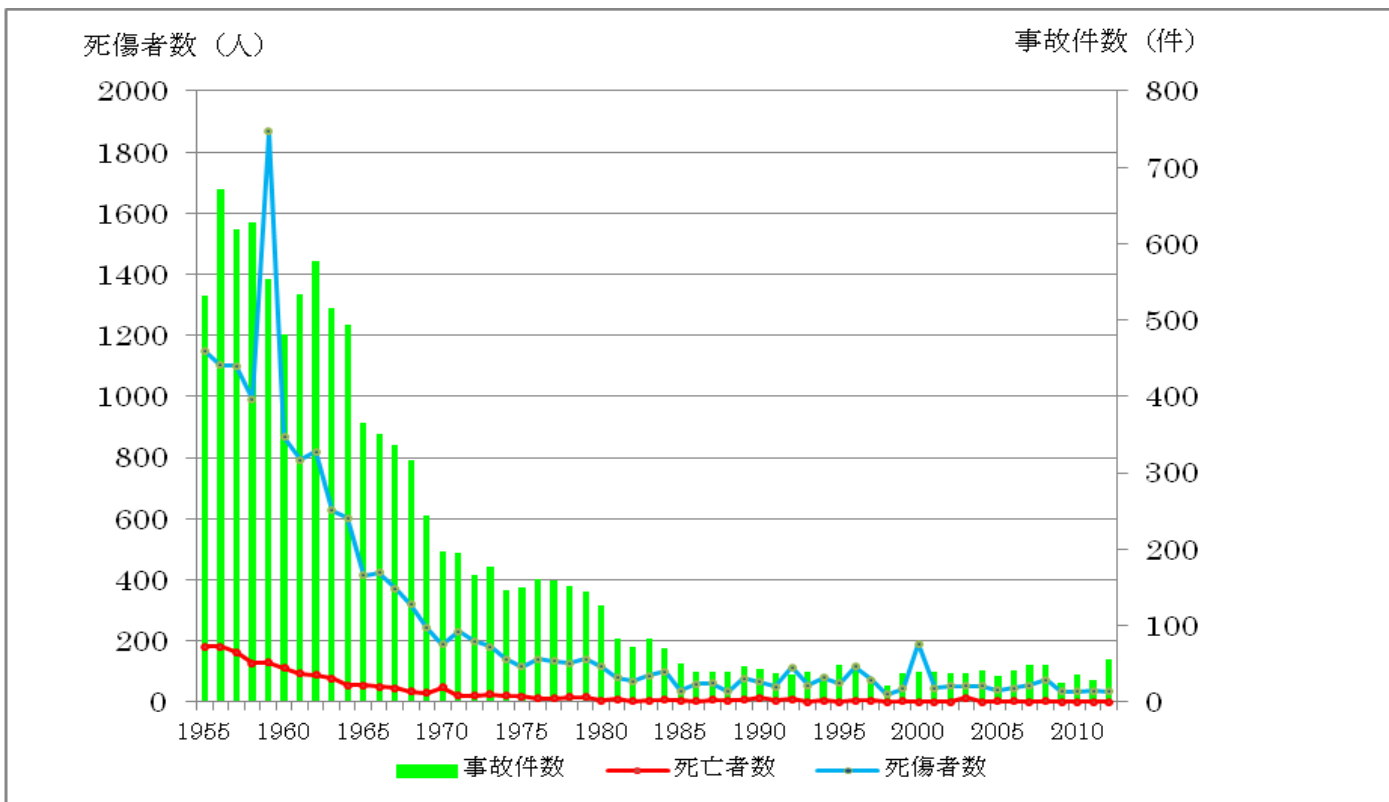


図1 昭和30(1955)年以降の事故件数の推移

ハ)直近10年間におけるA級相当の大事故は1件発生している。事故発生件数は横ばいながら、低水準であった過去3年から比較すると本年は8割ほど増加している。一方で、死傷者数に関しては低水準であった過去3年と比較しても同水準で推移していることを鑑みると、人損を伴わない事故が増加していることが確認できる。なお、2009年1月に煙火消費の技術基準を改正した火薬類取締法施行規則が施行され、煙火の遠隔点火等が義務化されたことにより、以後、筒ばねによる従事者の負傷事故は発生していない(図2参照)。

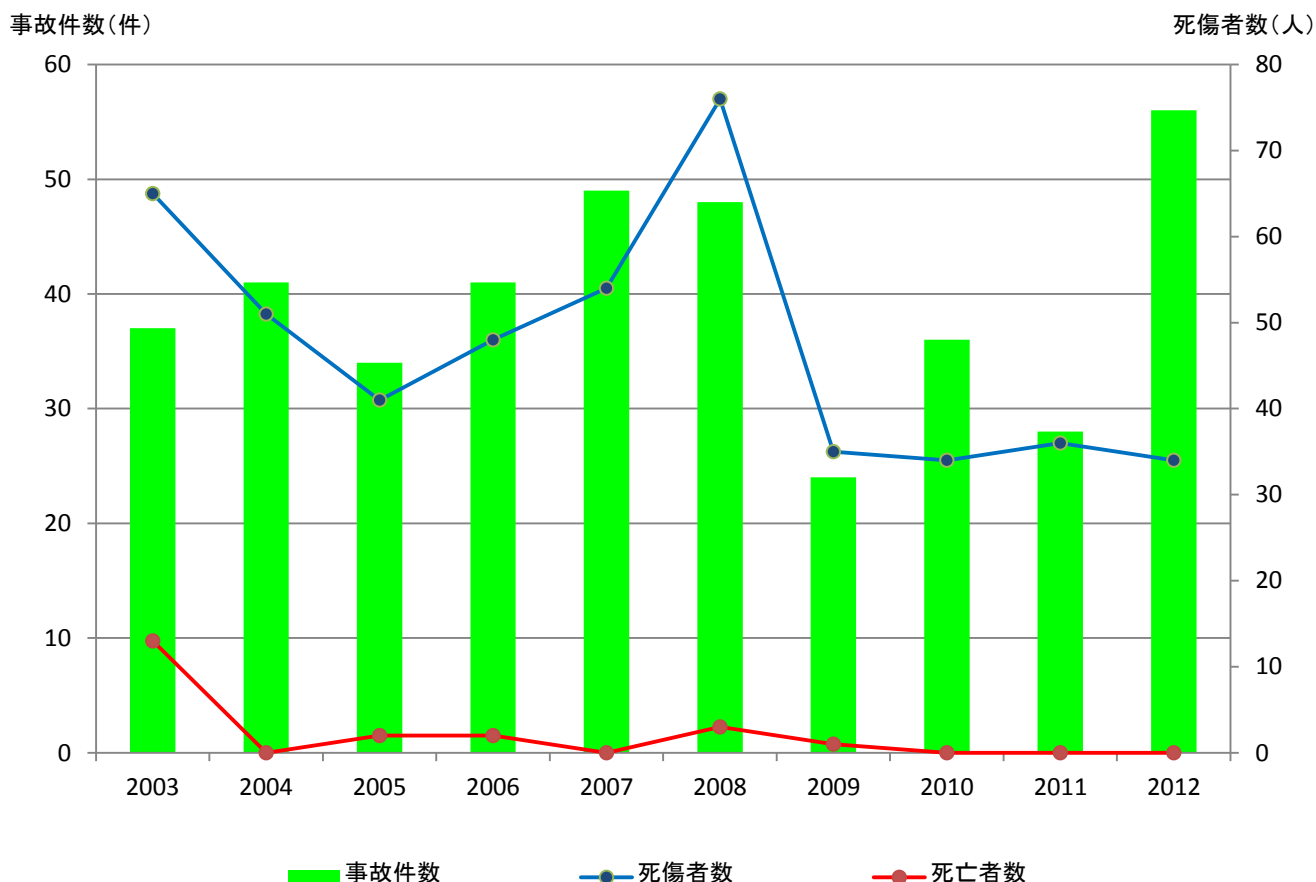


図2 直近10年間(平成15(2003)年～平成24(2012)年(経過))の事故件数の推移

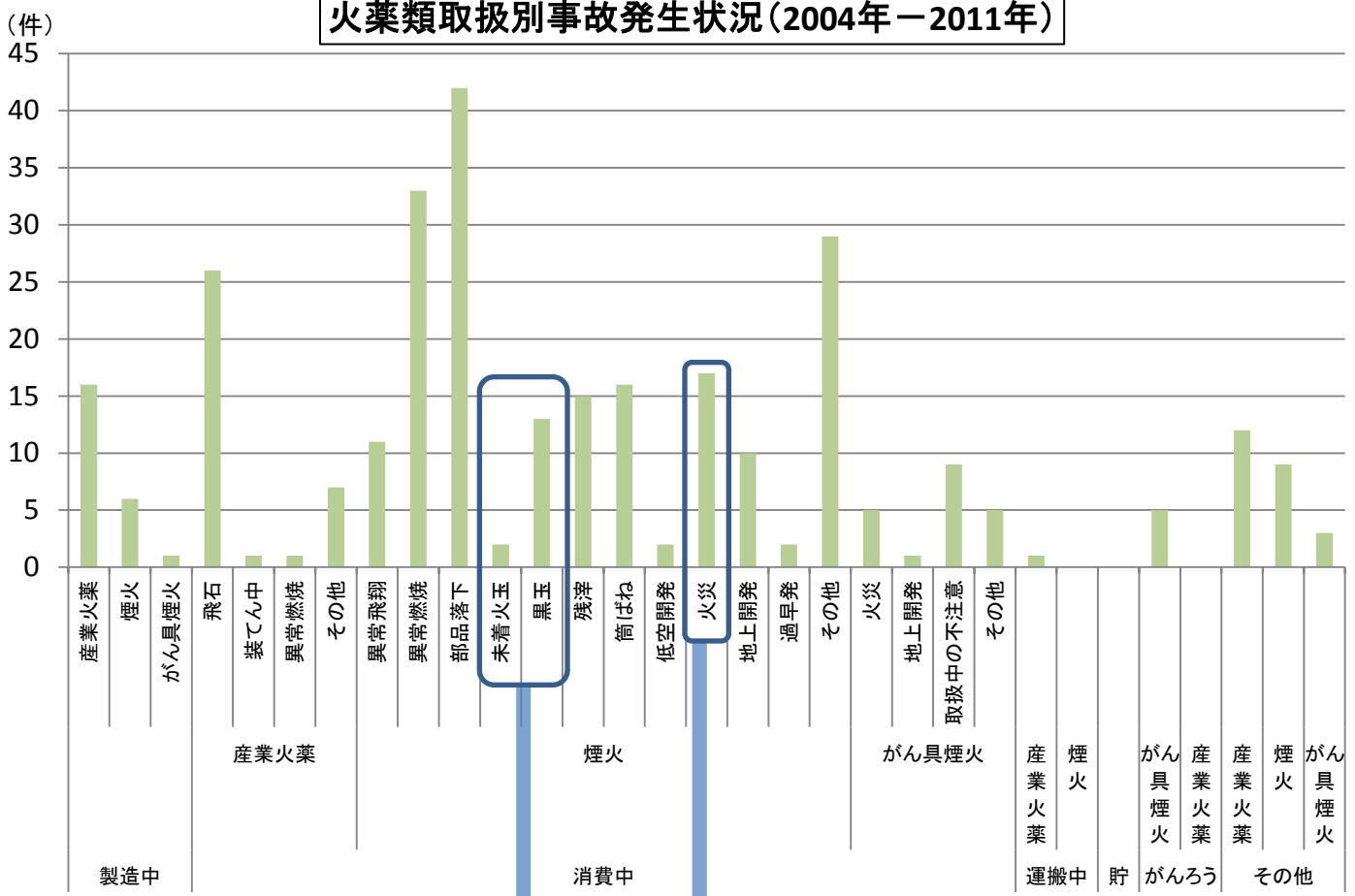
二)今年、A級事故はなかったが、B級事故は昨年と同様3件の事故が発生している(表参照)。

ホ)また、今年の事故発生状況を2004~2011年と比較すると、未着火玉、黒玉といった煙火玉に起因すると思われるものと火災が増えている(図3参照)。

取扱	発生日時	発生場所	死者	負傷者		事故概要
				重	軽	
消費中	7/28 20:10~ 20:15頃	東京都 台東区	0	0	1	花火大会で花火を観覧していた観客に、花火の落下物が顔面に当たり負傷したもの。  ※事故内容はC級事故であるものの、昨年に起きた同花火大会における事故(煙火の残骸が観客の右目に当たったというもの。)から1年以内に起きた事故であることから、事故措置マニュアルに基づき「B級事故」としての扱いとなったもの。
消費中	8/4 20:00頃	兵庫県 宝塚市	0	0	1	花火大会で花火を観覧していた観客の女性の右目に煙火の破片のようなものがあたり負傷したもの。  ※事故内容はC級事故であるものの、前日に起きた同花火大会における事故(煙火の残骸が観客に当たり火傷したというもの。)から1年以内に起きた事故であることから、事故措置マニュアルに基づき「B級事故」としての扱いとなったもの。
消費中	9/2 19:30頃	長野県 松本市	0	0	7	高校の学園祭の花火大会で、通称小型煙火の打揚げ最中に1本の紙製筒が破裂し、その衝撃で土台と煙火とを固定していた白縄が切れ、煙火が転倒、生徒のいた方向に地面と平行に星が打ち揚がったというもの。7名の生徒が火傷や過呼吸等の軽傷を負った。

表 平成24年B級事故概要

### 火薬類取扱別事故発生状況(2004年－2011年)



### 火薬類取扱別事故発生状況(2012年(経過))

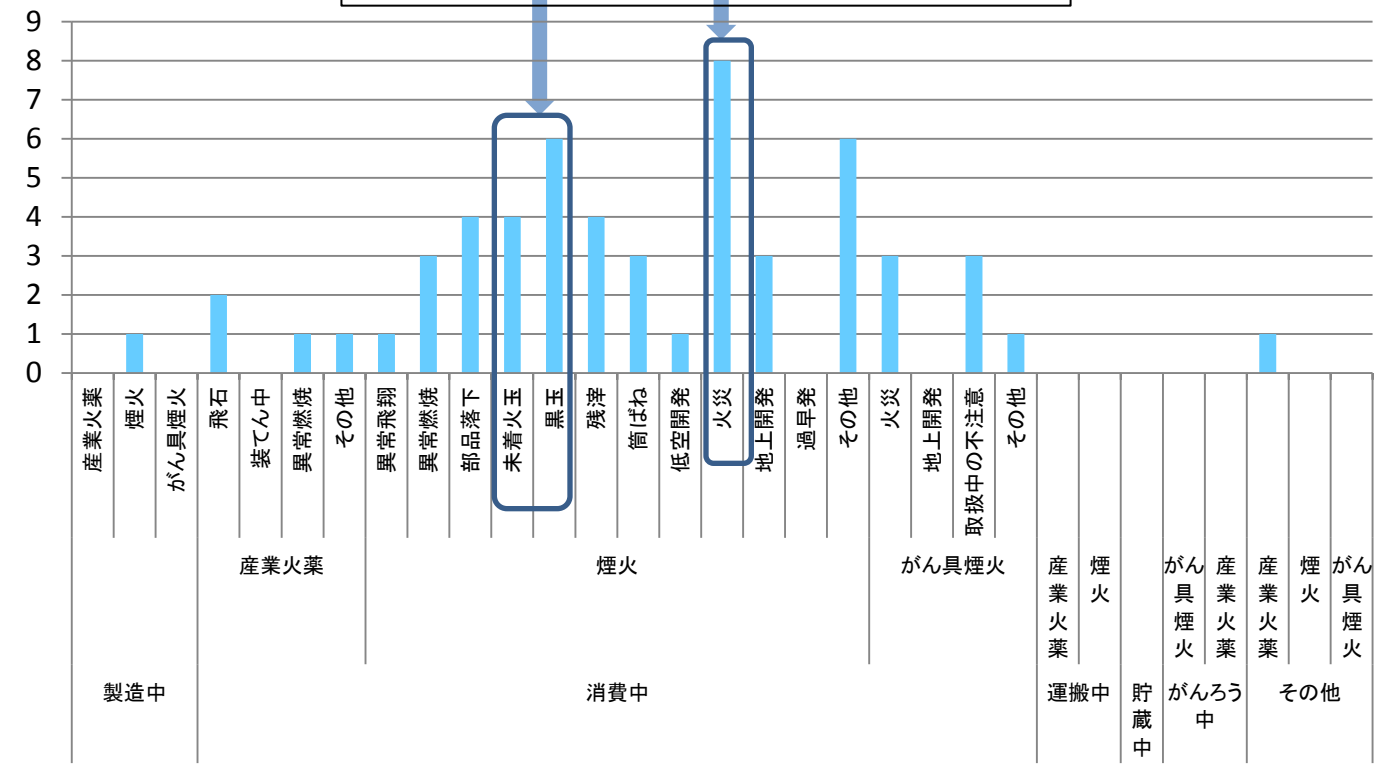


図3 火薬類取扱別事故発生状況